

サイパン遺骨収集で集められたもの

8223 軽機関銃・弾倉の破片 8225 ガスマスク用フィルター 8222 三八式歩兵銃の銃弾10発
8226 飯盒のふた 2個 8224 ガスマスク 2個



土間の土の中に埋まる
8242 B-29 機銃弾(ケース入り)



7078 爆弾の破片 1945年3月25日に春日井市に落ちた





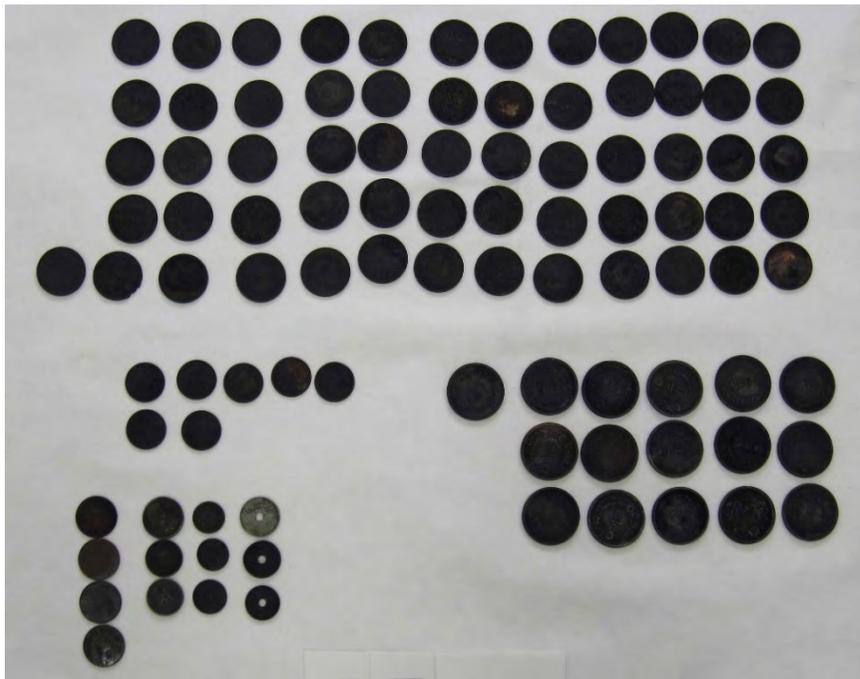
←上より
7592 爆弾の破片
豊川海軍工廠の空襲
(1945年8月7日)の後
7510 焼夷弾信管
詳細不明
7515 薬莖
名古屋市千種区の庭で発見

7043 手榴弾 7044 地雷



地雷
軍人遺族記念 赤十字社 (3個) 昭和21年
陶器手榴弾 (4個及び破損したもの)

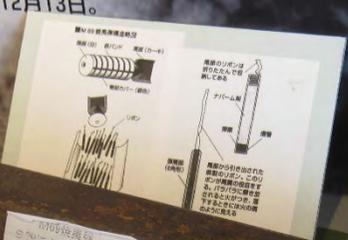
7500 焼けた硬貨 96枚
1945年3月19日の空襲の焼け跡の金庫の中で黒こげになっていた



焼夷弾



菱重工業名古屋発動機製作所大幸工場。初の本格的空襲、1944年12月13日。



焼夷弾
大崎市宮本市街地を焼き払い、市民の健康を脅かす目的として用いられた。本空襲隊が多い日本では、特に有効であり、米軍はさまざまなタイプを開発し、これを用いた。
* 真鍮の油缶(電子線をセリー状にし、広く散らした火が建物に付着するもの)
* エレクトロン(金属粉末の反応を利用して、高温を生成する)
* ナバーム(ガソリンを配合し、一爆きかす)
* 集束 焼夷弾を多数(例えば48本)まわ、上空で分散させ、広い地域を同時に焼き払う

M68焼夷弾
市街地に対する攻撃で最も多くナバーム焼夷弾。通常38発をねすに詰めて投下、設定した高度と尾部からリボンの尾を引きながら

襲は激しかった!

A-14

日本本土の空襲

